



麻疹が流行しています！



現在、海外諸国で麻疹が流行しており、日本でも感染者が増えています。4月18日に沖縄県内で新たに1歳～30代の男女7人の感染が確認され、3月下旬に確認されてからの患者数は合計63人になっています。2018年3月23日、沖縄県内を旅行中の台湾からの旅行者が麻疹と診断されたこと報告が以降、この患者（初発例）と接触歴のあった二次感染例を中心に、沖縄県内では麻疹患者の発生が続いています。4月12日には愛知県から、3月28日～4月2日の期間に沖縄県に旅行していた10代男性患者の報告があったことが、報道発表されました。

みなさん、世界各地にはまだまだ麻疹があるということを肝に銘じて下さい。

特にこのゴールデンウィークにご家族あるいは友人たちと沖縄やこれらの方面に旅行する計画のある方は十分留意して下さい。

●麻疹とは

麻疹ウイルスによっておこる感染症で、人から人へ感染します。感染経路としては空気（飛沫核）感染のほか、飛沫や接触感染など様々な経路があります。感染力はきわめて強く、麻疹の免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～14人の人が感染するとされています（インフルエンザでは1～2人）。

不顕性感染（感染はしても発症しない＝症状がでない）はほとんどなく、**感染した90%以上の人が発症します**。発症した人が周囲に感染させる期間は、症状が出現する1日前（発疹出現の3～5日前）から発疹出現後4～5日目くらいまでで、学校は**解熱後3日を経過するまで出席停止**となります（麻疹は、学校保健安全法に基づく第二種学校感染症に指定されており、学校を休んでも欠席扱いにはなりません）。なお、感染力が最も強いのは発疹出現前のカタル期（壊死を伴わない粘膜の炎症）です。

麻疹に対する免疫は持っているけれども免疫が不十分な人が麻疹ウイルスに感染した場合、軽症で非典型的な麻疹を発症することがあります。このような場合を「**修飾麻疹**」と呼んでいます。その場合、**感染力は弱いものの周囲の人への感染源になる**ので注意が必要です。

●症状と経過

潜伏期（10～12日間）

カタル期（2～4日間）

38℃前後の発熱、倦怠感があります。上気道炎症状（咳、鼻みず、くしゃみなど）と結膜炎症状（結膜充血、目やに、光をまぶしく感じるなど）が現れて次第に強くなります。乳幼児では消化器症状として、下痢、腹痛を伴うことも多くみられます。発疹が現われる1～2日前ごろに頬粘膜（口のなかの頬の裏側）にやや隆起した小さな白色の斑点（コプリック斑）が出現します。



←コプリック斑

発疹期（3～5日間）

体温は1℃程度下がり、その後半日くらいのうちに、再び高熱（多くは39℃以上）が出るとともに、発疹が出現します。発疹は耳後部、頸部、前額部から出始め、翌日には顔面、体幹部、上腕におよび、2日後には四肢末端にまでおよびます。発疹が全身に広がるまで、高熱（39.5℃以上）が続きます。

回復期

合併症のないかぎり7～10日後には主症状は回復します。



発疹期→

このように、麻疹の主症状は発熱が約1週間続き、カタル症状も強いため、合併症がなくても入院を要することが少なくなく、回復までに時間のかかる重症な病気といえます。

●合併症

麻疹に伴ってさまざまな合併症がみられ、全体では30%にも達するとされます。その約半数が**肺炎**です。肺炎と脳炎を合併すると、麻疹による二大死因となるため、注意が必要です。

合併症：肺炎、中耳炎、クループ症候群、心筋炎、脳炎 等

●予防方法

唯一の予防方法は**ワクチン接種**です。2回のワクチン接種により、麻疹の発症のリスクを最小限に抑えることが期待できます。

通常ワクチン接種後2週間後から予防効果が現れます。しかし、麻疹患者と接触してしまった後でも、72時間以内に麻疹含有ワクチンの接種を受けることで、発症を予防できる可能性があります。



ゴールデンウィークなどの休暇にご家族あるいは友人たちと**沖縄**や**外国**（ドイツやイタリア、ポルトガルなどのヨーロッパ各国やアメリカ合衆国、カナダを含むアメリカ大陸、東南アジア）に旅行する計画のある方は十分留意して下さい。